

ドイツの主導的ジャーナリストが告白

——自分や他の西側記者は CIA に買収されていた

【訳者注】ウルフコッテのことは、この欄ですでに紹介済みだが、そのインタビューのテキストがまだなかったため、詳しくは紹介できなかった。今、Zuesse の補足がつけられて、より貴重な記事になっている。このジャーナリストの告白の重要さは、陰謀団側から寝返った者によるという意味で、イルミナティ離脱者スヴァーリの証言にも匹敵するだろう。

私はこれを、メディア関係者にぜひ読んでいただきたい。ドイツと日本は、同じ第二次大戦の敗戦国として共通点があるはずである。ウルフコッテは、あえて自らの恥をさらし、しかも命の危険を冒して、メディア界の嘘やタブーをすっば抜くことによって、この世界そのものの巨大な悪と腐敗に気づかせた。日本の新聞・テレビ界にも、こうした良心と勇気をもつ人が現れることを、我々は待ち望んでいる。ここから得られる教訓は、ジャーナリストは、その自覚ひとつで、犯罪者にも救世主にもなりうるということである。

Eric Zuesse, “Leading German Journalist Admits CIA “Bribed” Him and Other Leaders of the Western ‘Press’

October 7, 2014

ウドー・ウルフコッテ (*Udo Ulfkotte*) は、ドイツ最大の新聞の一つ、フランクフルター・アルゲマイネの元編集長だったが、彼自身と他の西側のニュース・メディアの腐敗を、公然と告白する決意をした。その理由は、こうした腐敗は究極的にヨーロッパを、ロシアとの核戦争に追い込むことになり、それこそ、CIA をコントロールしているアメリカの貴族階級が望んでいるものと彼は考えたからだった。——*E.Z.*

私はほぼ 25 年間ジャーナリストをやっていましたが、私の教えられてきたことは、嘘をつくこと、裏切ること、一般大衆に真実を語らないことでした。…ドイツとアメリカのメディアは、ヨーロッパの人々に戦争をもたらそう、ロシアに戦争をもたらそうとしています。もう引き返せない時に来ています。だから私は立ち上がって言うことにしました…私が過去にやってきたことは正しいことではありません。人々を操り、ロシアを敵視する宣伝をしたこと…そして、私の同僚たちがやっていること、過去にやってきたことも正しいことではありません。なぜかと言うと、彼らは買収されて、ドイツだけでなくヨーロッパ中の人々を裏切っているのです。…私はヨーロッパに新しい戦争が起こるのを、とても恐れています。そ

してこういう状況を再び望まないのは、戦争はかつてにやってくるのではなく、それを押し進める人たちが常にいるからです。そしてそれは政治家だけではなく、ジャーナリストもそうです。…私たちは読者を裏切ってきました、戦争を押し進めるために。…こういうことはもうやりたくありません。このプロパガンダはもう嫌です。我々は、バナナ共和国 [何でも言うことを聞く国] に住んでいます。報道の自由をもつ主権国家ではありません。

特にドイツのメディア、私の同僚たちは…毎日毎日、ロシア政府の悪口を書いています。(これらのジャーナリストは) 大西洋横断諸組織の中において、そうするようにアメリカから援助を受けている者たちです。…

私は“オクラホマ名誉市民”になりました…なぜでしょうか？ それは私がアメリカのために書いたからです。私は中央情報局 CIA から援助を受けていました。なぜかと言うと、私がアメリカ支持者だからです。もうそれは嫌になりました。これ以上それを続けたくありません。それで私は本を書きました、金を稼ぐためではありません、それでは面倒なことになるでしょう。(本を書いたのは) この国ドイツと、ヨーロッパの人々、世界中の人々のために、閉ざされたドアの後ろで何が起きているのか、その一瞥を与えるためです。…

[ビデオ進行 4:40] 外国で見かけるジャーナリストのほとんど、ヨーロッパやアメリカのジャーナリストで、かつての私のような者たちは、“ノン・オフィシャル・カバー”と呼ばれています…“ノン・オフィシャル・カバー”とは何かと言いますと、ある情報局のために働く者のことです。しかし…彼ら(一般大衆)が、この者はただのジャーナリストでなく、スパイでもあると見破ったときには、彼ら(CIA)は決して、この人は自分たちの仲間だとは言いません。…それで私は、いくつかの場面で彼らを助けましたが、今は恥ずかしい思いでいっぱいです。私は恥ずかしく思っています、私が…億万長者に買収されていたことを…私はアメリカ政府に買収されて、真実を正確に報道しないようにしていました。…

このインタビューのためにここへ運転してきた車の中で、私は空想していました。頭の中で一生懸命、考えてみようとしていました、もし私が、フランクフルター・アルゲマイネに、ロシア支持の記事を書いたとしたら、どうなっただろうと。まあ、…我々はみんな、ヨーロッパ支持、アメリカ支持の記事を書くように、絶対にロシア支持のものは書かないように、教育されていました。…しかしこれは、私が民主主義として、言論の自由として理解しているものではありません。私はそれが慚愧の念に堪えません…

[6:30] ドイツはいまだに、いわばアメリカの植民地です、多くの点にそれが現れています。たとえば、ドイツの大多数は、自分の国に核兵器をもつことを望んでいませんが、いまだにアメリカの核兵器は置いています。そのように我々は、いまだにアメリカの植民地のような

もので、植民地であるために、若いジャーナリストに——ここが非常に重要なことですが——大西洋横断組織を通じて近づくことが、とても簡単なのです。世評ある、大きな、ドイツの新聞、雑誌、ラジオ局、テレビ局、こうしたものはすべて、これら大きな大西洋横断組織のメンバーかゲストなのです。だから、これら大西洋横断組織の中にいると、アメリカ支持者になるように、あなたに近づいてくる人がいて、…そういう人たちは、あなたをアメリカ見物に誘い、費用も何もかもこちらで持つから、などと言うのです。そこであなたは買収され、どんどん墮落していき、とても有利なコンタクトをしていくからです。…そこであなたは仲良くなり、素晴らしい友達ができたといい、彼らに協力するようになります。そこで彼らは頼みごとをしてきます、「こんなことをしていただけないだろうか」「あんなことをしてもらえないか」…そこで、あなたの脳はますます洗脳されていきます、こういう連中を通じて。…

これはドイツのジャーナリストだけの話でしょうか？ 違います。私は、特にイギリスのジャーナリストにこれが起こると思います。なぜなら、彼らはもっと緊密な関係をもっていますから。イスラエルのジャーナリストの場合もそうです。もちろんフランスのジャーナリストの場合も。…オーストラリア、ニュージーランド、台湾からのジャーナリストも、その他多くの国、たとえばヨルダンなどもそうです。

[9:17] 時には、情報局があなたのオフィスへやってきて、論説を書いてくれと言うこともあります。私が今思い出すのは、例えば、ドイツの外国情報局 Bundesnachrichtendienst (連邦情報局) が、私のオフィスへ来ました。これは CIA のシスター組織にすぎません、アメリカの情報局によって作られたものです。彼らは私に、リビアについて、またムアンマー・カダフィ大佐について、論説を書いてほしいと言いました。…彼らはすべての秘密情報を私にくれました。そして私には、ただその記事に、私の名をサインしてほしいだけだ、と言いました。私はそうしました。それはフランクフルター・アルゲマイネに載りました。…それは、彼(カダフィ)が、いかに毒ガス工場を造ろうと密かに画策したかという内容でした、…それは、数日後、全世界で印刷された物語でした。しかし私はそんな情報は、全く持っていませんでした [CIA がそれを書いた]。

<http://en.wikipedia.org/wiki/Bundesnachrichtendienst>

[11:25] (CIA に) もし「ノー」と言えば (何が起こるかの) 非常によい例は——そこで (ノーと言った特定の被雇用者について) 起こったことは、彼が職を失ったことです。

[12:40] 6 回に及んで私の家が搜索を受けました…家を攻撃されたのは 3 回です。(しかし) 私には子供がありません、だから…これはもっとひどいことになるはず (子供のいる家族が脅迫されたとしたら)。

<https://youtu.be/yp-Wh77wt1o> (全インタビューの動画)

ウルフコッテは裏切者になっている。彼はもともと、ドイツでムスリムが増えていくのに反対する、保守的なキリスト教のドイツ人だった。その後、あるドイツの大会社が、サダム・フセインがクルド人をガスで殺す手助けをしたのを、ジャーナリストとして発見しておりながら、彼の新聞がそれを伏せたのに罪の意識をもち、ウルフコッテはしばらくの間、イスラム教に改宗した。彼はおそらく、自分が新聞のトップ経営陣に食ってかかり、彼らを見捨て、自分が発見したことを公表しなかったこと、それを隠ぺいさせたことを、大きな恥としてそれに決着をつけたのだろう。 http://en.wikipedia.org/wiki/Udo_Ulfkotte

しかし、彼はその後、イスラム過激主義に対する、あるキリスト教の平和運動を、ドイツで共同で起こした。そして現在は、アメリカこそ、平和に対する最大の脅威だと論ずる本を出している。この本は *Gekaufte Journalisten* (買収されたジャーナリスト) で、ドイツ語版しかない。

http://www.amazon.de/Gekaufte-Journalisten-UdoUlfkotte/dp/3864451434/ref=sr_1_1?ie=UTF8&qid=1412620518&sr=8-1&keywords=gekauft+journalisten+ulfkotte

彼は今、伝統的ドイツ文化の、反イスラムだけでなく、反ロシア的要素をも放棄してしまったので、もはや彼は、彼を助けて、何十年の間、ジャーナリストとしての成功の道を後押ししてきた、保守的ドイツ人たちの間で歓迎されなくなった。この“ジャーナリスト”を、今彼は“プロパガンディスト”と呼んでいる。

彼はおそらく、かつてニクソン党だったアメリカの **Kevin Phillips** に相当するドイツ人であろう。フィリップスは後に、かつてニクソンの下にあつて強力な宣伝をした、その同じ貴族階級 (グローバル・エリート、イルミナティ) を批判するようになった。

広範囲な他の、独立した、証拠が、CIA は本質的にファシストだというウルフコッテの主張を裏付けている (その前身の OSS=戦略事務局も実はそうだった)。それは実は、アメリカのファシストの設立したものである。この CIA は東欧全体から、特に反ロシアのナチスを募集し、ヨーロッパ諸政府を指令して、ロシアを破滅させるように企んだ。その証拠の例はいくらでもあるが、そのうちの9つをリンクで示そう：——

<https://www.youtube.com/watch?v=GGHXjO8wHsA>
http://en.wikipedia.org/wiki/Junio_Valerio_Borghese

<http://www.washingtonsblog.com/2014/09/sibel-2.html>

<http://www.washingtonsblog.com/2014/08/americans-still-falling-old-schoolyard-bully-trick-hit-first.html>

<https://www.youtube.com/watch?v=AARtO88G5Ag>

<https://www.youtube.com/watch?v=RHbqhy2DSxE>

<http://www.c-span.org/video/?320748-5/washington-journal-architects-engineers-911-truth>

<http://jfkfacts.org/assassination/news/newseum-to-host-edward-epstein-a-warren-commission-critic-suckered-by-the-cia/>

<http://www.namebase.org/campus/henwood.html>

結果として、ウルフコッテの言っていることを疑う、確かな理由は何もない。彼の物語は、背後から働く、アメリカの寡頭政治主導のグローバル・ファシズムという、より大きな記録された全体像に、ぴったりはまっている。この者たちが、工業国全体を通じて組織的に民衆をだましており、アメリカの貴族が望む戦争——注文通りの、利益を生む戦争——を作り出している（たとえば、[このような](http://www.washingtonsblog.com/2014/07/profits-ukraines-war.html)）。

また、その何十年もの歴史の現在起こっている結果について、他の最近のニュース記事が入り乱れている——例えば、[これ](#)、[これ](#)、[これ](#)、[これ](#)。

<http://deutsche-wirtschafts-nachrichten.de/2014/07/14/nato-experte-aus-sicht-der-usa-ist-deutschland-ein-besetztes-land/>

<http://deutsche-wirtschafts-nachrichten.de/2014/09/20/programm-beirat-uebt-scharfe-kritik-an-der-ukraine-berichterstattung-der-ard/>

<http://deutsche-wirtschafts-nachrichten.de/2014/09/17/die-verbuendeten-der-eu-neo-nazis-vom-asow-bataillon-wollen-diktatur/>

http://www.cjr.org/behind_the_news/pbs_pulls_ads_from_harpers_mag.php?page=all

これら現行の例の最初の 3 つは、ウルフコッテ自身の証言通りに、ドイツからのものである。のみならず、ドイツの **2013 年 11 月の世論調査**は、ドイツでのアメリカ政府への民衆の不信が、増大していることを示している。ドイツは、西側同盟の中心的存在だから——そして特に、アメリカ貴族階級の、EU、IMF、世界銀行、NATO への支配の中心だから——アメリカ政府からのこのような離反は、（我々の政府を支配する）アメリカ貴族の支配を脅かすものである。アメリカの“同盟”の崩壊は、もしドイツ人が、アメリカの最も金持ちの“バナナ共和国”にすぎない立場から離れ続けるならば、遠くないかもしれない。

<http://www.spiegel.de/international/germany/nsa-spying-fallout-majority-of-germans->

[mistrust-united-states-a-932492.html](http://www.opednews.com/articles/mistrust-united-states-a-932492.html)

しかし米大統領オバマは、民主的に選ばれた政府による、いかなる法をも踏み越えて、アメリカの国際的協力を直接コントロール下に置くことによって、その可能性を遠ざけようと試みている——すなわち、いかなる国民国家をも超えた国際的ファシズムだ。Harry Reid（と彼の米上院コントロールの力）が、オバマのこれを法制化しようとする試みの、躓きの石になっている。（下院共和党は圧倒的にオバマ・イニシャティブを支持している。）

http://www.opednews.com/articles/Harry-Reid-Effectively-Kil-by-Eric-Zuesse-Corporate-Accountability_Corporate-Corruption-Crime_International-Trade-Agreements_President-Barack-Obama-POTUS-140130-857.html

http://www.huffingtonpost.com/2013/09/24/michael-froman_n_3984115.html

（エリック・ジューシーは調査歴史家、最近著として、*They're Not Even Close: The Democratic vs. Republican Economic Records, 1910-2010*, および *CHRIST'S VENTRILOQUISTS: The Event that Created Christianity* がある。）